

令和6年度第2回福岡市総合図書館運営審議会 議事録

- 1 日 時：令和7年1月15日（水）10：00～12：00
- 2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室
- 3 出席者：委 員) 矢崎 美香、星子 奈美、倚松 満、貞包 俊晴、白川 義人、西 聡子、
白根 恵子、藤村 興晴、脇山 真治、田中 優、藤 政江（計11名）
事務局) 橋本総館長、松崎館長、永長運営課長、立石図書サービス課長、
高巣文学・映像課長 他
傍聴人) 3名

4 議事録

1. 開 会

総館長挨拶

2. 議 事

議題 次期福岡市総合図書館基本的運営方針について（課題整理、方向性を協議）

- (1) 事務局より資料1「次期福岡市総合図書館基本的運営方針について（案）」などを説明。議事の進行の都合上、先に別紙5「福岡市総合図書館の現状と課題」以外の部分について協議。

委員	第2次ビジョンの体系としては第1次ビジョンの枠組みを継続するという説明だった。委員としては枠組みの継続に特に異論はないが、内部で議論する中で、枠組みを変えようという話は出なかったのか。
事務局	第1次ビジョン策定から10年経過しているので理念などは現状に応じた見直しが少し必要だと思うが、内部で検討し、ビジョンの基本的な構成などの体系は踏襲しようということとなった。
委員	議題である第2次ビジョンの策定に対して、本日私たち運営審議会は何を求められているのか。 例えば、私たちが感じたことで、こういう視点を盛り込んだらどうか、貸出冊数や学校図書館などの今ある問題点に対して何か意見や要望を出せば、取り上げてもらえるものなのか。 今日の運営審議会の位置づけも含めて、教えてほしい。
事務局	今回については、ご指摘のように、新たな考えを盛り込むべきというようなご意見をいただきながら、今後反映できるものがあれば反映していきたいと思っています。委員の皆様には、議論の中で意見や要望などを出していただきたい。
委員	福岡市の貸出冊数や人口1人当たりの貸出冊数は政令市比較でも低位にあるが、他の政令市の成功事例は調べているのか。その中に問題解決の糸口が見つかること

	もあるのではないか。
事務局	成功とは、貸出冊数を伸ばすという意味か。
委員	福岡市における施策と他政令市における施策には違いがあり、その中に貸出冊数を伸ばした成功事例もあり、活用できる部分もあると思ったため、意見を述べた。
事務局	市町村合併や人口規模など、各政令市の成り立ちや状況には違いがあるため、それぞれ課題も異なると考えている。 国の議論では、図書館と学校図書館との連携など様々な課題が設定されており、現時点で、個別の政令市の具体的な成功事例について現時点では深掘りしてはいない。
事務局	先ほどの回答の補足になるが、意識調査結果をみたとき、話題の本を読みたいという要望が非常に多いが、その要望に対して、公共図書館として、どのように対応するかという大きな課題があると思っている。 福岡市では、人気本や話題本であったとしても、1つの館に1冊、多くても2冊ぐらいしか入れない。それは、本の出版業界は、ベストセラーなどを売ることにより作家や本業界を守っているからで、この複本問題については、業界と国との間で議論されている。ただ、他都市の図書館では、購入か寄贈が分からないが、話題本や人気本を多く入れているところがある。実際、要望に応じて話題本や人気本を多く入れれば、貸出冊数はどんどん伸びていく印象がある。 福岡市の基本的な考え方としては、もちろんベストセラーも一定程度確保はするが、幅広く様々な分野の本を市民の皆さんに提供していくというベースは守っていないといけないと思っている。利用者からのベストセラーや人気本の予約待ちを減らしてほしいという声も分かるが、今まで同様、他の分野の本とのバランスを考えながら今後も対応していきたいと考えている。 また、他都市の図書館では、漫画本を多く入れているところもある。漫画本は人気があるので、1冊入れればどんどん貸出は伸びる。ただ、福岡市では、漫画本は原則入れないという考えの下取り組んでおり、これを変えるのであれば、大きな方向転換となる。もちろん漫画が悪いとは思っておらず、日本の誇るべき文化と思っているが、人気本への対応と同様、幅広い分野の本を提供するという理由からである。 他都市において、貸出冊数が多い理由は以上の理由だけではないと思うが、一定の影響はあるかと考えている。
委員	ここまでの意見をまとめると、まず委員からの具体的要望は第2次ビジョンを検討する中で取り入れてもらえるかという点だが、この後事務局が説明する「現状と課題」の審議の中で、話し合ってもらうことになる。

	<p>また、意見の出た他政令市の成功事例や貸出については、事務局から説明があったように、第2次ビジョンを考える上で、図書館の本質や意義を見失わないようにしないといけない。以前から言われている「図書館は貸本屋である」という問題や文芸協会が訴えている「著作物の売り上げ」の問題にも絡む、10年という長期計画なので、各委員は、図書館の役割等をしっかり見極めながら、検討していただきたい。</p>
--	--

(2) 事務局より別紙5「福岡市総合図書館の現状と課題」を説明。

委員	<p><1 これまで図書館を利用していない層への利用促進></p> <p>市政意識調査の結果を確認し、本を全く読まない人がかなりの数いることに驚いた。図書館の取り組みやサービス以前に、本を読む習慣が無い人や読書の楽しみを知らない人がかなりいるところに問題があると思う。</p> <p>来館者数を増やすという目的で、色々な施策、例えば、居心地の良い空間を作って来館者を増やしたとしても、そこで終わってしまうと本当の有効活用にはつながらない気がする。本を読む楽しみを知って、本を借りたいので図書館に行くという人を増やすことが大事。昔に比べ現在は様々な楽しみがあるので、本に関心を持ってもらうのは、なかなか一筋縄ではいかないと思うが。</p> <p>私は、よく図書館を利用して現状のサービスや取り組みに満足しており、これ以上のサービス向上というよりも、根本的な読書の楽しみを啓蒙することが大事だと思う。</p>
委員	<p>65%の人が3年間図書館を利用していないというのは、なんということだと感じるが、図書館だけで頑張っても、なかなか図書館を利用する層を生み出すのは難しい状況ではないかと思う。あとの課題とも重なっていくが、例えば学校とか地域の公民館とか、もちろんボランティアの方々の力も借りて、図書館だけでなく、市全体として、本を読む人の人口を増やすことに取り組めば、自然と図書館の利用者も増えていくと思う。現状を考えると、市全体での取り組みが必要な段階になってきていると、個人的には思っている。</p>
委員	<p>課題が大き過ぎて、どこが頭かどこがしっぽか分からない。市の問題に携わっている事務局に、どこから手をつけていくべきか、どこをターゲットとして考えていくか、現状認識を聞かせてほしい。</p>
事務局	<p>まずは幼少期から本に親んでもらうことが一番大事ではないかと思っている。幼少期から、小学生、中学生、高校生となるが、現在の取り組みがなかなか若年層の利用に結びついていないのが課題と考えている。そのため、第2次ビジョンの中に何かしら幼少期を対象とした読書習慣につながる取り組みを盛り込みたいと考えている。</p>

委員	<p>質問の続きだが、図書館がブックスタートなどに取り組んでいるのは知っているが、特に小・中学校ぐらい、いわゆる読書離れをする世代、部活が忙しくなったり、友人関係が変わったりするヤングアダルト世代について、伺いたいことがある。</p> <p>7・8年前に私の子どもが体感したことだが、読書活動推進を掲げているのに、学校図書館がそもそも開いていない、学校司書は複数校を兼任するというような状況で、どうやって読書活動推進を図るのだろうかと思った。</p> <p>これは、行政の複数の部署にまたがる問題だと思うが、こういう現状を図書館側では認識しているのか。</p>
事務局	<p>委員のご指摘のとおり、学校司書は複数校、4・5校を1人で兼任している。その点については、教育委員会の学校図書館担当部署と情報交換をしており、その部署においても、1人1校を最終目標として、なんとかできないか色々と検討しているところである。</p> <p>総合図書館としても、学校図書館支援センターがあるので、お互い連携をとりながら、学校における読書活動推進について、協力しながら取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>最後にもう1つだけ、福岡市の場合は特徴があって、総合図書館がすごく豪華。来館すれば魅力的なものがたくさんある。しかし、各区に設置している分館、もう少し小さいレベルでいうと、今後活用しようとしている公民館のような身近な拠点が、東京と比べるとずいぶん少なく、図書館が身近なものにはなっていない。</p> <p>これは先程の学校図書館や学校司書の兼任の問題と同様、つまるところ、予算の問題。福岡市がこの問題に対してどれだけ問題意識を持って予算をつけるかということに帰結すると思われるがどう考えているのか。</p>
事務局	<p>確かに他都市の中には、公民館に図書室を設置しているところもある。</p> <p>福岡市では、図書室とまではいかないが、公民館の一面に本を置いて、地域の方に利用していただいている状況がある。</p> <p>また後ほど出てくるが、福岡市には団体貸出サービスがあり、他都市に比べ充実しており、登録団体も多い。ただ、地域に一番密着している公民館については、まだ登録は半数であり、公民館の運営の在り方とか、地域の人材である読書ボランティアの方々の活用も含めて、未登録である半数の公民館について、今度どのように取り込んでいくか、検討しながら進めていきたいと思う。</p>
委員	<p>私は、図書館を利用するきっかけは何でもいいと思っている。</p> <p>最終的に、本を読んだり、借りたりすることに到達すれば良いので、例えば、「総合図書館に来ると4ヶ月単位で何か美味しいものが食べられる」とか、「地元のデザイン専門学校と協力して、福岡市図書館に行けば非常に面白いグッズがある」とか、「地元の吉本を利用して、時々漫才をやる」とか、要するに図書館に来て、最終的に本に</p>

<p>委員</p>	<p>接してもらえらば、そのきっかけは何でも良い。</p> <p>最初から本を借りたり、読んだりしてもらおう目的で人を呼び込もうとしても、最近の若い人はなかなか図書館に来ないと思うので、きっかけは何でも良いと、少し柔軟な発想で考えてみたらどうか。</p> <p>今の委員のご意見については、私も賛成。本日は、家庭教育関係者という立場で参加しているが、私の仕事、様々な企業に新規集客のアドバイスなどをするコンサルティングの観点から考えると、誰にどうやって来てもらうかというつながりがすごく大事だと思う。どの世代に来てもらいたいかを考えつつ、今も SNS の発信をされていると思うが、小学校の低学年ぐらいの子どもたちに来てもらうために、例えば Facebook（フェイスブック）で発信したとしても見ないので伝わらない。その辺の整理は現在いろいろ検討されていると思うが、誰に来てもらうためにどういう内容をどのような方法で発信すべきか、その方針を決めるのがすごく大事ではないか。</p> <p>また、図書館に人を呼び込むイベントについても、先の委員が言われたように、図書館に全く関係ないイベントも実施してみたらどうか。</p> <p>今の子どもたちは、TikTok（ティックトック）や YouTube（ユーチューブ）のショート動画で情報を得ている。これら動画は3から5秒で相手の気持ちを掴むようにできているが、今の子どもたちが動画を見る時間は1分以内。だから今の子どもたちは、1分以上ものを見ない習慣がついている。こういう子どもたちに対してどのように発信していくのか。SNS を活用するにしても、TikTok（ティックトック）や YouTube（ユーチューブ）に投稿するのはなかなか大変だと思うが。</p> <p>また、私の小学生の子ども2人には、本を読む宿題が出されることがあり、本を読むことが嫌なことになっている。例えば、国語の教科書を読んでもくる宿題ができれば、早口で音読し、はいこれで終わりというのが読書となっていて、本を読むことが楽しくないと感じている。</p> <p>私は図書館に入り浸る子どもだったので、この状況はすごく寂しい。</p> <p>だからこそ、先の委員が言われるように、まずは図書館に1回行ってみようと思ってもらえるようなイベントを、お金をかけずできるものも多いので、外部の団体に委託して実施してみたらどうか。例えば、子どもたちが公園などで行っているカード大会や不用品回収で集まった子供服やベビーグッズの無料頒布会の定期開催などを、無料ボランティアの協力を得ながらとか。</p> <p>まずは図書館に来てもらうという目的で、現在図書館では行っていないようなイベントを無料を条件に公募したり、もちろん使用料を徴収して図書館運営経費の補填としても良いと思うので、視点を変えてみると、市民に関心を持ってもらえる、もう少し面白いものになるのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>かなり色々な意見が出たが、やはりターゲットを絞り込みどのように展開していくかという中で、発信方法については、利用者のニーズや今の時代に合わせて、もう</p>

	<p>少し検討する必要があると思う。</p> <p>また、先程読み聞かせが少し話題に出ていたが、人の問題については、文部科学省では学校司書の充実のための予算措置していると聞いており、国でも施策を打ち出している。それに合わせて、各自治体においても、多分予算が措置されるのではないかと期待しているところであるが、きっかけづくりという部分で、今までになかった発想で展開していくのは良いのではないか。子どもたちの力、中高生の力を借りて口コミという形で宣伝し、普及させていくことも、もう少し考えても良いのではないかと思う。</p> <p><2 身近で便利な図書館サービス></p> <p>福岡市では近くに図書館が無い場所もある。身近な図書館の取り組みとしては、先ずは公民館の活用ではないか。私の地元の公民館には、ミニ図書館のような場所があり、地域の方々にも喜ばれている。私自身も、購入しようと思った書籍が公民館に置いてあり嬉しかった経験がある。</p> <p>身近な図書館は大事なもので、これが失われると読書離れが進む。昔は調べものをするときは図書館に行っていたが、今はスマホが普及しているので、電子図書館について、もっと広報して利用を促してもよいのではないか。私も電子図書館を利用してみたいと思っている。</p> <p>また、公民館の講座で人を集める苦労は実感しているところだが、先程発言があったように、本に関係無くても図書館に行きたくなるようなイベントを実施し、多くの人を集めることに取り組んでみたらどうか。</p>
委員	<p>公民館の話が出ているので、公民館の現状について、少し話をしたいと思う。</p> <p>私が館長をしている公民館では、講堂の隣に児童集会室という部屋があり、その部屋に、児童書、大人の本、子どもや小学生向けの本を、周りをぐるっと取り囲む形で、置いている。また、団体貸出については、大きなスチール棚を2つ設置し、総合図書館から借りた本を全部入れ、紛失しないように少し厳重に管理をしている。子どもたちは、乳幼児のイベントのときに、図書室に入り、頻繁に絵本を借りたり読んだりしている。この乳幼児向け事業は年間18回実施しており、イベント終了後時間があるので、開催の度に、「図書室でぜひ本を読んだり借りたりしてください。」と声掛けをしている。こういう環境のため、公民館では、子どもたちにとっては、すごく身近な本になっていると思う。</p> <p>公民館の団体貸出の活用については、場所が無いのか、場所があっても活用していないのか分からないが、登録は約半分。福岡市には公民館が149館あるので、まだ相当数の公民館が団体貸出を利用していない状態である。もし、場所や本棚が無いことが障害となっているのならば、そういう支援を行うことによって、団体貸出の利用が促進されるのではないか。</p> <p>あと、本の貸し出しや返却を行うボランティアがいるのかどうか。公民館全体の状</p>

	<p>況は分からないが、私が館長をしている公民館では、毎週水曜日にボランティアの方が来て、本の貸し出し、返却の整理、本の紹介を行っている。また、公民館だよりでも、毎月1回、乳幼児向けの面白い本があるなど、本を紹介している。</p> <p>このボランティア団体は、年2回程度、子どもたちが集まる機会に、大型絵本の読み聞かせやシアターのイベントを通じて、子どもや乳幼児が本に親しむ環境を作る取り組みを行っている。公民館としては、可能な限り交流をしながら、本の貸し出しを実施できたらと思っている。</p> <p>公民館の現状の話の中では、子どものこと、乳幼児、幼児、小学生などが話題の中心だったが、図書館の利用については、大人も含めて考えないといけないと思う。</p> <p>電子書籍以外の本の貸出について、他の自治体では、I C タグの導入に伴いコインロッカーを利用した本の受け取りを行っている事例があるので、そういうものも検討材料としてもよいのではないか。</p> <p>また、I C T（情報通信技術）の活用ということでは、図書館をもっと身近で利用しやすいように、例えば、チャットの活用や他の自治体で導入している館内マップや携帯による本の所在場所への誘導など、新しい機能の導入を検討してみてもどうか。</p>
委員	<p><3 課題解決型のサービス機能の充実></p> <p>課題はきちんと把握されていると思うが、その解決策はなかなか図書館だけでは実施できないのではないかと思う。</p> <p>資料に書いてあるように、図書館をよく利用していても、図書館にレファレンス機能があることを知らない人は結構いて、私の身近にもいたので、驚いたことがあった。もう少し何らかの形で、図書館にレファレンス機能があることを、周知していかなければならないと思っている。</p> <p>別の会議で提案したが、書架に、この分野でこういう質問を受けこのような回答をしたというちょっとしたレファレンスの事例みたいなものを掲示し、図書館に来た利用者に、こういう質問をしてもいいんだと思ってもらえるような、そういう仕掛けができないか。</p> <p>図書館が発行している図書館だよりには、レファレンス事例がきちんと掲載されているが、読む人が限られているので、なかなか周知が進まない。そのため、図書館に来たときに、自分が借りようとしている本の分野では、このような質問がありこのように回答がもらえると分かるような掲示があれば、図書館に来るがレファレンス機能を知らない利用者に対して、レファレンス機能がどういうものか周知することにつながるのではないかと思う。</p> <p>また、人材育成についてだが、国、文部科学省、日本図書館協会（J L A）では、様々な研修を実施している。その研修について、会計年度任用職員も含めた司書を、年に1人でもいいので、なんとか受講させてもらえないかと切に願っている。</p> <p>私自身も、児童図書館員養成専門講座など様々な講座を受講させてもらい、研修に</p>

	<p>より司書としての実力がつき、仕事にも自信が持てた。</p> <p>受講生の中には、多分、私費で有給休暇を利用して受講している人もいると思うが、もっと受講しやすいように、全額公費負担は難しいとしても、有給休暇を利用しなくても参加できるような手段を設けてもらいたいと切に願っている。</p>
委員	<p>国立国会図書館では、レファレンスの遠隔研修が行われており、本市図書館では、この研修の修了者がどのぐらいの割合いるのか、調査しているのか。</p>
事務局	<p>このレファレンス研修を受講している者はいるが、現時点でどの講座を何人受講したか現状は把握していないため、確認をしたいと思う。</p>
委員	<p>この研修は遠隔なので、自分のパソコンからでも受講できるはず。まずはこの研修を受講して、修了者を増やすことにより、司書のスキルレベルを上げることを検討していただければと思う。</p>
委員	<p><4 子ども読書活動の推進></p> <p>「(1) こども図書館及び各分館」の課題に書かれている「読書リーダー」とはどのようなものか。一般的なリーダーというイメージなのか、あるいはすでに読書リーダーという取り組みがあるのか、教えてほしい。</p>
事務局	<p>読書リーダーとは、学校図書館と連携を図り、小学生を対象に、読書リーダー養成講座を開催しているもので、毎年教育委員会作成のインターネット配信による読書リーダー養成講座を、小学校5・6年生の図書委員などに受講してもらい、読書リーダー養成講座修了証を学校で発行している。</p>
委員	<p>小学生を対象とし、「ノーテレビデー」ということで1週間の中で読書の日を設ける取り組みがあるのだが、福岡市では実施されているのか教えてほしい。</p>
委員	<p>福岡市では、小学生や中学生に対して、メディアから離れることを知るという目的で「ノーメディアデー」という取り組みを過去推進していた。</p> <p>コロナ禍前では、「ノーメディアデー」には、テレビから離れて、本を読んだり外で遊ぼうと、メディアから離れることを推進していたが、コロナ禍に、学校の授業がタブレットで行われるようになり、メディアの使い方を知るという方向に変わり、メディアに関して学ぶ取り組みになっていった。</p> <p>ただ、コロナ禍に、小・中学校のPTA活動が止まったため、現在、「ノーメディアデー」は、福岡市PTA協議会としては案内しているが、その活動は各学校に委任されており、ほとんどの学校で、取り組まれていないのが現状。</p>

	<p>私が携わっている小学校でも今のところ活動はストップしている。</p>
委員	<p>現場の実感として、もし、「ノーメディアデー」を再開すれば、現在停滞している読書活動が動き出す可能性はあるか教えてほしい。</p>
委員	<p>可能性は十分あると思う。学校単位で取り組みを行うので、例えば、総合図書館から「ノーメディアデー」に合わせたイベントについて、福岡市PTA協議会に案内してもらえば、各区の小学校や中学校のPTA連合会を通じて、各学校に情報を伝える。そうすれば、「ノーメディアデー」を通じた読書活動の普及につなげることはできると思う。</p>
委員	<p>すぐにできそうな取り組みと思うので、この取り組みを再開するときに、電子図書館の普及も一緒に行えば、読書推進とメディア利用の相乗効果が期待できるのではないかと。課題解決への初手として、検討してほしい。</p>
委員	<p>< 5 映像資料・文書資料の有効活用 > 文書と映像で各1つずつ。 最初に、文書の永年・長期保存と閲覧について。資料の課題の中で、「公文書の電子化が進む中、歴史的電子公文書を永年保存し閲覧に供する手法は未整理」と書かれているが、現在の福岡市のやり方、マイクロフィルムとデジタルでの保存の併用はとも良いものだと思っている。 長期保存についてはフィルムに優るものはない、500年保存できる。ただ、閲覧が非常に不便なので、閲覧用のデータを別に作る必要はあるが。この両方併用という手法が全図書館で実施されているかは分からないが、私はこの両方併用は非常に有効だと思っているので、福岡市はこの方法を継続すると言い切っても良いのではないかと。 そこで、文書のデジタル化についてだが、市内には図書館学や歴史学を教える大学はたくさんあり、そういう大学と連携して、学生に実習・演習の延長、つまり単位を認定するというような手法もあるのではないかと。 業者に委託するよりも、お金はかからないはず。市民に支えられる図書館、市民に協力してもらえる図書館という側面もあるので、大いに大学の研究室や学生と連携して、デジタル化の実習・演習という名目で、進めてみることもできるのではないかとと思う。</p>
委員	<p>私の経験を挙げると、小学校のPTA活動の中でベルマークの集計作業というものがある。この作業は結構大変で、少しでも多くの保護者に集まってもらうために、交流会・お茶会という情報交換の場を設けてその中でベルマークの作業をお願いしている。最近では保護者の横のつながりがあまり無いため、子どものお小遣い、LINE使</p>

	<p>用など、子どもに対する悩みを相談できる場所や友人が無く困っている保護者も多く、情報交換の場には結構参加してもらえる。市民への協力を求めるならば、単に作業を依頼するだけでなく、そういう観点からの工夫も必要だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>映像資料・文書資料の有効活用の課題に限ったことでは無いが、今課題となっていることの中には、利用者の現象や固定化などが背景にあるものもあるのではないかと。それに対する改善方法としては、次の2つのどちらか、より使ってもらえるよう工夫して利用促進するか、利用が少ないものは見直しや廃止するか、となる。</p> <p>例えば、今だと、AIへの対応などこれから新しい技術に対応すべく、福岡市総合図書館でも様々なサービスを実施しているが、それら全部を促進することはかなり困難なのではないか。</p> <p>第2次ビジョンを策定する上で、どれに重きを置くのか、重要度に濃淡をつけることは大事で、事務局としてどういう方向性で進めたいと考えているのか、我々委員に示してもらえると、今後の議論に役立つのではないかとと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>全国に 3,000 以上図書館がある中で、福岡市総合図書館の特徴的側面はどこかと考えると、私は、映像資料の収集、アーカイブ、シネラだと思う。</p> <p>知っている人もいるかもしれないが、日本で国際フィルムアーカイブ連盟の国際基準に準拠したフィルム保管庫を持っているのは、東京にある国立映画アーカイブと福岡市総合図書館の 2 ヶ所だけ。図書館に限定すると、全国で唯一福岡市総合図書館だけである。</p> <p>そのような図書館のフィルム収集が、寄贈と寄託に限定されて、ここ何年も新規購入が無い。本同様、図書館の基本機能として購入は重要なはずなのに、購入が何年もない状態はいかかなものか。福岡市総合図書館の映像資料、アーカイブ、収集リストについて、市民の皆さんに注目していただき、大いに PR すべき。</p> <p>また、映像ホール・シネラの課題として、来場者の大半が 65 歳以上の高齢者で固定化傾向と書かれているが、それであれば、先程の文書のデジタル化同様、市内大学に幾つもある映画研究部と連携して、若い人たちが、シネラで何か見てみようか思ってもらえるような企画を行ったらどうか。上映物を持ち込んでもいいのでは。そういう解決方法はいくらでもあるはず。市民が作る、市民が支える映像ホールという新たな側面の展開になるのでは。</p> <p>予算の獲得が大変だと思うが、全国で福岡市総合図書館にしかない映像システム、アーカイブなので、ぜひ予算を獲得してほしいと切に願います。第2次ビジョンで、1つでも第1次ビジョンと異なる取り組みができるように。</p>
<p>委員</p>	<p>映像資料や文書資料の有効活用の話の中で、近隣の大学の実習・演習・クラブ活動との連携で、貴重な資料を有効活用すれば良いという意見が出た。</p> <p>図書館が所蔵する大変貴重な資料をそのまま埋もれさせるのではなく、PR 資料と</p>

<p>事務局</p>	<p>して活用し、福岡市総合図書館の特徴を示すことができればと思うので、今後、活用方法やPR方法について、話し合っていきたい。</p> <p>委員の皆様から貴重なご意見をいただいたので、事務局から文書資料部門及び映像資料部門について、まとめて発言させてもらう。</p> <p>文書資料の保存方法については、現在、マイクロフィルムとデジタルデータの両方を併用しているが、マイクロフィルムが高騰しており、最近、両方併用することが危うくなってきている。今後については、専門的な意見も踏まえ、考えていきたい。</p> <p>市内大学生との連携については、現在、文書整理など一部参画してもらっているが、まだ十分には取り組めていなかったことだと思う。</p> <p>それから、複数の委員から指摘を受けた利用者減少や固定化については、昨年度途中から映像資料の新しい学芸員が着任したのを機に、様々な見直しを行っている。やはり見方が変われば、客層や観客・動員数に対して変化が生じるのは実証されており、常に新たな視点を持って努力し続けなければいけないと認識している。</p> <p>最後に、フィルムアーカイブや国際基準について委員から紹介してもらったが、確かにここ数年、予算は現状維持にとどまっており、特徴を打ち出せるよう認識を共有し、新たなものを生み出していかなければならないと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>各委員から色々な意見が出たが、多様な取り組み全てを推進することは難しいと考える。やはり重要度、濃淡を付けて、重要度の高いものをピックアップしたり、そうでないものは廃止や方向転換をするなど、現状を変えるという視点も必要である。</p>
<p>委員</p>	<p><6 運営体制のあり方></p> <p>私の友人に、福岡市図書館の指定管理受託業者で働いている方がおり、先日会う機会があったので、現場から何か伝えたいことがないか尋ねてみた。</p> <p>私は、指定管理者制度については、資料に記載されているように、民間の活力を導入することにより、開館時間の延長や利用者増などメリットがある一方、雇用をめぐる問題もあり、一長一短であると思っている。</p> <p>先程の知人は、やはり予算がすべての活動の源泉だと言っていた。指定管理の現場で働いている司書や非正規雇用の方々の声をもう少し吸い上げられるようなプロセスを考えてみてはどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>会議に出るたび、図書館の課題は多岐にわたると本当に感じている。だからこそ、今後審議を進めていく上で、この多岐にわたるものを多岐として受け止めてしまうと、議論は絶対進まない。</p> <p>先程特徴という話が出たが、ビデオライブラリーを例に挙げると、特徴を付けるというテーマで、こういうところに先ずは集中させると決めなければ、求心力が分散し、これだけの業務があれば、お金も人も分散してしまうという状態になる。</p>

<p>委員</p>	<p>だからどの取り組みもやはり予算が無いということになるので、どこにエッジが立てられるのかというのが、この長期計画の肝だと私は思う。</p> <p>そういう意味で、例えば「大人が来られるような図書館」と言った瞬間に「子どもは見捨てるのか」という話が必ず出てくる。そういうときには、やはりある程度力技で、大人の読書活動の推進に取り組むべきだし、また子どもの教育に力をいれるならば、「ノーメディアデーは、市全体で一丸となって取り組もう」とか大きな流れを作る必要があり、どこかエッジをつけていかないといけない。</p> <p>福岡の特徴はこれだというものを決め、それを念頭に、第2次ビジョンを考えていくべきだと思っている。</p> <p>事務局は、今後議論を深めていくためにも、本日の委員の意見を踏まえて、次回までに改めて現状と課題を整理し、施策の方向性を通して、基本理念や目指す図書館像の案を提示してもらいたい。</p>
-----------	---

3. 閉 会
館長挨拶